

第2学年D組 国語科授業案

日時 平成27年6月15日第3校時
場所 2D 教室
授業者 森 卓也

1 単元 ちいさな旅のはじまり（文化とのつながりを考える）

2 単元の構想

(1) 本単元で目指す子どもの姿

子どもは岡崎の町の様子が書かれた文章に出会う。文章の特徴をつかむとともに、子どもは、自らもどこかに出かけて旅の様子を書きたいと感じる。実際に、それぞれで「ちいさな旅」に出かけた子どもは、旅の様子を文章に書き、思いが伝わるかどうかについて意見交流を行う。旅のエッセイを書くことで相手に伝わる表現を意識した子どもは、物事をよく観察して文章を書くようになる。

(2) 本単元で伸ばしたい力

本単元では、旅のエッセイを書くことをとおして、周りの風景や物事をよく観察し、その様子をわかりやすく説明したり、そこで感じた自分の思いを言葉にしたりする中で、表現する力を育んでいく。また、旅の様子が書かれた文章を分析し、そのよさや特徴を捉える力を育む。そして、旅エッセイをどのように書いたらよいのかについて、それぞれに追究を進めていく。その中で、物事を観察する視点や書き方、比喻や擬人法などの表現のよさを知り、どのように書けば相手に伝わる文章になるのかについて追究する中で、練り上げる力を高める。旅のエッセイを書くことで、周りの風景や物事を細かく観察できるようになり、その様子を具体的に想像させるような言葉にこだわり始める。そして、実感を伴う言葉で自分の思いを語り始めていく。

(3) はたらきかけと「学んだこと」を行動につなげる子どもの姿

単元の導入では、岡崎の町の様子が書かれた文章を提示する。どこの場所について書かれた文章なのか興味をもった子どもは、実際にその場所に思いをめぐらせ、自分の目で確かめたいと感じたり、自分ならこう書きたいと考えたりする。そして、書かれた文章の特徴を捉えるとともに、自分でも「ちいさな旅」に出かけ、文章を書き始める。そこで、書いてきた文章をもとに、自分の思いが伝わるような文章の書き方について意見交流を行うことで、物事をよく観察して書くことや、場面の切り取り方について考える。また、見たことだけでなく、五感を生かした表現や自分の思いを入れた表現のほうが、相手により伝わるということを実感する。そして、そのことを意識して、もう一度、「ちいさな旅」に出かけたいと思い始める。

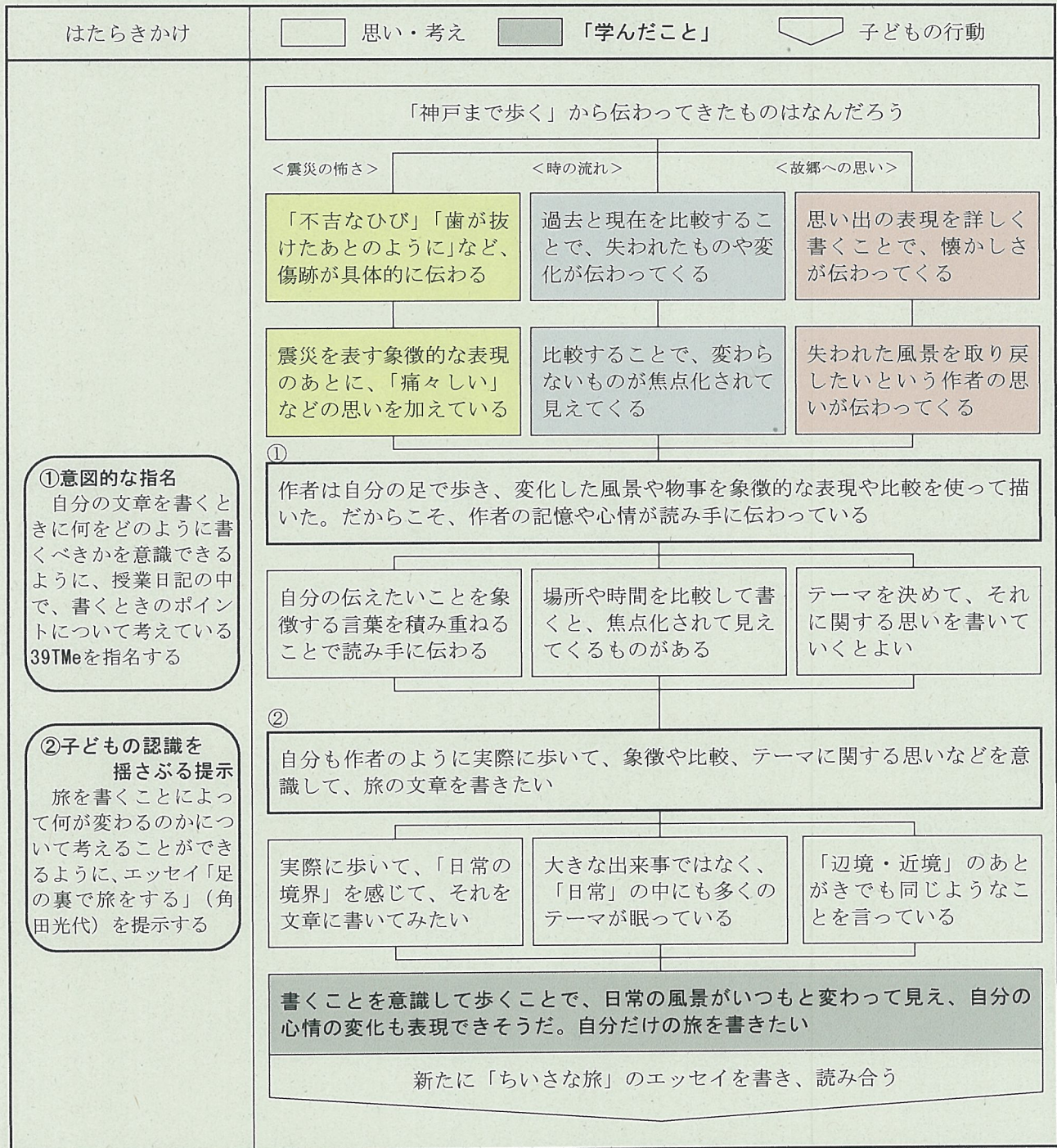
新たな「ちいさな旅」の計画をし始めた子どもに、エッセイ「辺境・近境」（村上春樹）を提示する。子どもは、物事を詳しく観察する視点や書き方、比喻などの技法、語り口のリズムの特徴などを確かめながら、作品から伝わってくるものについて意見交流を行う。そして、作品のテーマにふれた子どもに、「足の裏で旅をする」（角田光代）を提示する。子どもは、書くことを意識することで、日常の風景からも違った発見ができると知る。そして、自ら進んで旅のエッセイや旅に関する文章を読んで追究を進めながら、休日などを利用して「ちいさな旅」に出かけていく。

旅のエッセイを書き上げた子どもは、仲間とお互いの作品を読み合いたいと願う。子どもの作品を提示し、作品のテーマが表現できているかについて意見交流を行うことで、自分自身の文章を客観的に振り返る。自分の文章を修正し、旅のエッセイを完成させた子どもは、物事をただぼんやりと見るのではなく、書くことを意識することで物事をよく捉え、自分が見ていたものや心情を相手に伝わるように表現できることのよさを実感する。また、旅の様子を言葉にこだわって書くことで、自分自身の思いを表現することの楽しさにも気づく。そして、子どもは、日々の生活の中で物事をよく観察し、実感を伴う言葉を使って、相手に伝えていくようになる。

4 本時の構想 (11/14)

思ったことや感じたことを風景と重ねながら書くことで、自分の思いが伝わるということを知った子どもは、その描写の仕方を具体的に考え始めた。そして教師が提示した、エッセイ「辺境・近境」(村上春樹)の中の「神戸まで歩く」について、子どもはそれぞれに作品の内容を分析してきた。

本時では、「神戸まで歩く」から伝わってくるものはなんだろうというテーマで意見交流を行う。震災によって変わってしまった街の様子から感じる震災の怖さ、現在と過去を比較することで表れる時の流れ、記憶の中にある故郷への思いなど、作品から伝わるものについて意見を交流していく。そして、自分の足で歩き、変化した風景や物事を象徴的な表現や比較を使って描くことで、作者の心情が伝わることを実感する。そこで、いつも授業日記などでどうやって旅の文章を書くかを探している39Tmeを指名し、旅の文章の書き方について話し合いを焦点化する。実際に自分で歩いて、象徴や比較、テーマに関する思いなどを書きたいと考え始めた子どもに、「足の裏で旅をする」(角田光代)を提示する。子どもは、ただぼんやりと歩くのではなく、見えるものや感じることを大切に文章に表現することで、どんな日常も旅になるということを感じる。そして、書くことを意識して歩き、前回よりも自分の思いが伝わる旅の文章を書きたいと思った子どもは、新たに「ちいさな旅」に出かけ、自分の思いを文章に表現しようと考え始める。



主なはたらきかけ	思い・考え 「学んだこと」 子どもの行動	国語科で重視する力
<p>○子どもの認識を揺さぶる提示 旅に関する文章を書くこと、周囲の様子「ちいさな旅のじまり」(教師自作)を提示する</p>	<p>言葉にこだわって文章を書くことは大事だ</p> <p>どこかへ旅行することはとても楽しくて、わくわくする</p>	<p>国語科で重視する力</p>
<p>○見通しをもつための提示 旅のエッセイの書き方を考えるために、生徒のエッセイ作品を学級全体に提示し、意見交流を行う</p>	<p>見慣れた景色がどう描かれているのだろう 1~3時</p> <p>聴覚や触感などの感覚を使って、物事の様子を説明している</p> <p>視覚の情報が多く、その場所にいて一緒に感じているように感じる</p> <p>詳しく書かれているが、事実だけ書かれていて物足りない</p> <p>細かいところまで詳しく描写されているが、事実だけ羅列されている。旅の様子が読み手に伝わるような文章を書くにはどうすればよいか</p> <p>実際に「ちいさな旅」をして、旅のエッセイを書く 4~6時</p> <p>五感を使って書いたり、心情表現を入れたりすることが大切</p> <p>色や形、大きさなど、細かいところをよく観察して書くことよい</p> <p>旅の中でいちばん印象に残ったところに焦点を当てて書く</p>	<p>☆捉える力 ・実際の風景と文章から、書かれた文章の特徴をつかみ、どう書くべきかを考える</p> <p>☆表現する力 ・物事をよく観察して気づいた相手に伝わるように工夫をして文章を書く</p>
<p>○見通しをもつための提示 物事を細かく捉えている視点や心象などの表現、作品テーマなどができるところに、エッセイ「神戸まで歩く」(村上春樹)を提示する</p>	<p>旅をして思ったことや感じたことを風景に重ねながら描写することで自分の思いが伝わる。風景と心情の書き方について知りたい</p> <p>旅のエッセイを分析する 7~11時 (本時11)</p> <p>象徴的な表現を積み重ねることで伝わるものがはっきりする</p> <p>過去と現在を比較することで、変化を伝えることができる</p> <p>作品全体を通じて伝わってくる思いがある</p> <p>自分の伝えたいことを表す象徴的な表現を生かして書く</p> <p>場所や時間を比較することで、焦点化して見えてくるものがある</p> <p>テーマを考え、それに関する思いを言葉にこだわって書く</p>	<p>☆練り上げる力 ・村上春樹らの文章を分析することで、旅のエッセイを書くための大切な視点に気づく</p> <p><観察の視点> ①色や形、大きさ、配置などを書く ②比喻や擬人法などを活用する ③文章の長短や文体によるリズムの変化を知る</p> <p><心情の表現> ①思いや考えを書きこむ ②伝えたいことを意識する ③何を書くのか取捨選択する</p>
<p>○子どもの認識を揺さぶる提示 旅を書くこと、周囲の様子「足裏で旅をする」(角田光代)を提示する</p>	<p>書くことを意識して歩くことで、日常の風景がいつもと変わって見え、自分の心情の変化も表現できそうだ。自分だけの旅を書きたい</p> <p>新たに「ちいさな旅」のエッセイを書き、読み合う 12~14時</p> <p>何に焦点を当てて書き、何がテーマなのかを明確にしたい</p> <p>前回の旅よりも、周りの風景や自分の心情を表現することができた</p> <p>書いたエッセイをクラスや学校の外にも発信したい</p>	<p>☆表現する力 ・物事をよく観察し気づいたことや思い、考えが相手に伝わるように、実感を用いた文章を書く</p>
<p>○仲間の考えを示す 旅のエッセイの書き方について、自分自身を振り返ることができると、生徒の作品を学級全体に提示する</p>	<p>意見交流をもとに、旅のエッセイを完成させよう</p> <p>物事を詳しく観察し、自分の思いを表現することで、自分が見たものやその時の心情が相手に伝わり、自分自身を再発見することもできる。身の周りの物事をじっくり見て、自分の思いや考えを伝えていきたい</p> <p>物事をよく観察し、言葉にこだわって、自分の思いを表現していく</p>	
	<p>日記や作文で、観察の視点や心情表現を意識して書きたい</p> <p>実際に外に出て、自分でもっといろいろなものを感じたい</p>	